

民友クラブ・行政視察報告書

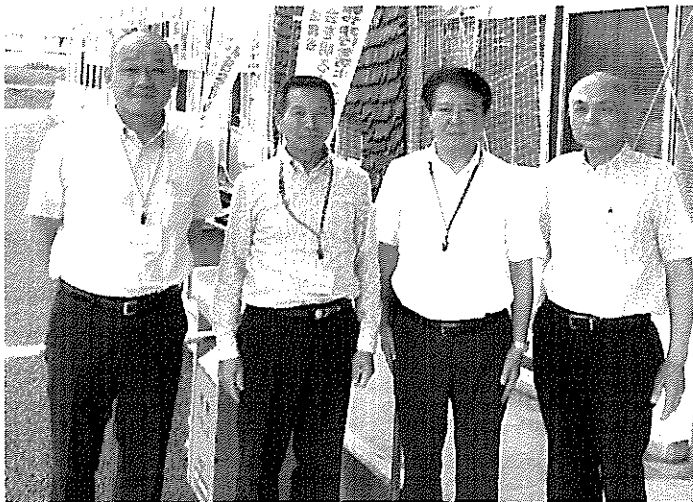
神谷文明

平成 31 年 7 月 1 日(月)～2 日 (火)

視察先 熊本県益城町

7 月 1 日 (月)

・【災害廃棄物の置き場について】



概要

益城町は、平成 28 年 4 月 14 日と 16 日に発生した熊本地震において、震度 7 の揺れが 2 回起こり、同地震の最大の被害を受けた。4 月 15 日の 12 時に補助グラウンドや臨時駐車場として活用されていた益城中央小学校跡地に災害廃棄物一次仮置場 16,300 m²を開設した。16 日に環境省の指導により 6 品目(可燃物、不燃物、瓦、コンクリート、木材、家電類)に分別した上で収集することとした。その後家屋の解体撤去が始まった後は、大量のごみが持ち込まれ解体業者と廃棄物業者とのトラブルがあった。

目的

熊本地震、最大の被災地益城町の被災後の災害廃棄物の処理の事例を学ぶことにより、東海・東南海地震が予想される当市の災害前にできる事を考える。

所感

益城町が災害廃棄物置場を発災後すぐに設置できたのは、一般社団法人熊本県産業廃棄物と締結していた「災害時における廃棄物の処理等の支援活動に関する協定」を結んでいたことに尽きると感じた。また、益城中央小学校跡地が空いていたこともあると思う。知立市も想定できるところと災害協定を事前に結ぶことが必要だと感じた。

視察先 熊本県大津町

7月2日(火)

【大津町総合体育館地中熱空調導入事業について】



概要

平成 27 年冬の総合体育館でのイベントの際、暖房が必要だと意見があったが、空調を設置すると総額 2 億円係るとのことであった。しかし、経産省に派遣していた職員から、環境省の「グリーン・ニューディール基金事業」で、災害時の避難所となる施設で商用電力が使用できなくなった時に対する補助金制度があることを知り、国が認める省エネの熱供給施設(地中熱空調)を導入した。

目的

震災時の避難所となる体育館の空調の計画を金がかかるために考えていない当市において、ほとんど持ち出しゼロで空調設備を設置した事例を学ぶ。

所感

空調完成後、被災時には体育館の天井が落下し、実際には避難所として使用できていなかった。地下 7.5 メートルほどの地中熱なので、驚くほど冷暖房効果があるか解らないが、国の補助金制度をキャッチし事業に生かせたのは大きいと思う。我々も行政もアンテナを高くし様々な補助制度を研究しなければいけないと感じた。

視察先 熊本県菊陽町

7月2日(火)

【企業誘致の取り組みについて】



概要

熊本県のテクノポリス構想に基づくセミコンテクノパーク造成にあたり、用地交渉等を町が担当した事により、企業誘致活動に本格的に展開することになった。その結果、ソニーセミコンダクター九州(株)本社が進出。その後、フジフィルム九州(株)本社等も進出し、雇用・所得・人口・税収も増加した。

目的

知立市も企業立地推進課を創設し、今年度から本格的に企業誘致を始めたが、その手法について先進地である菊陽町から学ぶため。

所感

熊本県の企業庁、東京事務所、大阪事務所と連携し、進出先を探している企業を紹介してもらう手法を取った。また不動産業者との日頃からの情報交換や水質が良いなどの他と差別化できる売り込みをおこなった。

進出企業は、本社機能を持ったところでなくては大きな税収効果がないと切実に感じているようであった。しかし、現在では工業用地が少なくなっているため、農振法や農地法の規制に苦しんでいる。

担当者の本音が聞けて大いに勉強になった。